

「税」と聞いて、まずイメージするものは社会における税制度の意義や、私たちの生活において税の恩恵を受けていることに対する「感謝」ではなく、納めるという行為に対する「負担」ではないだろうか。つまり「税」にはネガティブな印象がつきまとう。

当たり前には享受し、そのありがたみを理解しないまま過ごしていることは、税に限ったことではない。どれも相互の理解不足が原因であり、互いを理解することで歩み寄れることは多い。しかし、親への感謝であれば、成長の節目に気づききっかけとなるが、「税」への感謝となると、気づきとなる機会が、少ないのではないだろうか。

我が家には、私が幼い頃からずっと、年に一度、税を納めることが「希望」となっていることがある。それは「ふるさと納税」だ。幼い頃はわかっていなかったが、両親から、どういった経緯で、その税を納め続けているのかを聞いてからは、私も弟と同じ「思い」を共有するようになった。

ふるさと納税とは、応援したい自治体を選んで、使い道を決めて寄付できる制度だ。受動的に納めるものではなく、自分の意志で、自分がしてほしい活動に寄付ができる。また、その土地の返礼品を受け取ることができる。

我が家は、佐賀県への「NPO支援」を使い道に指定したふるさと納税をしている。佐賀県のNPO支援の中には、こどもの貧困、いじめ対策、不登校の居場所づくり、災害支援、海洋プラスチックの回収、病気の支援など、百以上の多様なメニューがある。私は、両親から、ふるさと納税で、治らない病気が治るようになるための研究に充てられていることを知って、弟が病気とわかった時の「絶望」が「希望」に変わったと聞いた。自分達には直接治してあげることができないが、ふるさと納税をすることで、医療者や研究者と並走し、治る日を信じている。返礼品には、佐賀に住む同じ病気の患者・家族とその関係者による品が用意されている。家族でその返礼品をいただく時間は、家族でいつか根治の日を改めて願う時間となっている。ふるさと納税が充てられた研究成果のレポートも届いている。我が家はこのふるさと納税で、未来に希望を持つことができている。

これを機に、私の住む市のふるさと納税の使い道も調べてみた。ICT教育環境整備事業・学校給食費補助事業・児童図書購入事業・がんばる児童・生徒応援事業とあった。実際に私自身も、ふるさと納税の恩恵を受けていることを知った。

私は、ふるさと納税をきっかけに、税に関心を持つことができた。いつか私も両親のように、弟の病気の根治のために納税し、弟の病気が根治する日が来ることを願っている。税は、決してネガティブなものではなく、人々が幸せに暮らすための重要な役割を果たしていることを意識して過ごしていきたい。